

●教科書検討の観点からみた内容の特色

※青字の「⇒(P.000)」は教科書のページ数です。

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所
① 教育基本法及び学校教育法との関連		
⇒取り扱っている内容は、 教育基本法 に適合しているか。 教育基本法第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	我が国の歴史に関する 基礎的・基本的な知識及び技能 を確実に習得し、 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する態度 を育てることで、幅広い知識と教養を身につけるとともに、私たちの今と将来を明るく豊かなものとするために歴史を学ぶことができるようにしている。 ◆第1編「 私たちと歴史 」は、第1節で小学校の歴史学習を振り返る活動を通じて、 歴史的な見方・考え方を働かせた 歴史の学び方を解説しているとともに、年代の表し方や時代区分の意味や意義、年表の読み取り方などの歴史学習の基盤となる知識及び技能を習得できるようにしている。第2節では、身近な地域の歴史の調査の仕方・考察の仕方・発表の仕方を具体的に学ぶことができる構成にしている。 ◆第2～6編の各時代の学習では、単元を貫く問いを立て、学習の見通しをもてるように 導入 で工夫している。 本文 は十分な文字量を確保して、 平易な表現で歴史の流れや因果関係を丁寧に叙述 している。 ◆ 導入 に対応する まとめとふり返し では、単元を貫く問いを解決するとともに、 習得した知識を活用して時代の特色をとらえる ことをねらいとした学習活動を設けている。 ⇒ まとめとふり返し (P.62-63、102-103、152-153、212-213、256-257、290-291) ◆各時代に設置された チャレンジ歴史 では、資料の読み取りから、生徒に 選択・判断 させるものまで 発達の段階に応じた教材 を掲載しており、 主体的・対話的で深い学びの実現 を図っている。 ⇒ チャレンジ歴史 (P.38-39、74-75、150-151、210-211、252-253)	⇒P.14-15 P.30 ⇒P.6-11 ⇒P.12-13 ⇒P.32-33
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	意欲的に学習に取り組めるように、学習のねらいを明確にし、 歴史的な見方・考え方を働かせて思考力、判断力、表現力等の向上 を図りながら、学習の成果を実感できる構成しているとともに、 歴史と職業及び生活とのかかわり への関心を高め、 勤労を重んずる態度 を育てることができるようにしている。 ◆教科書全編にわたり、 歴史的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする問い を豊富に設け、 主体的・対話的で深い学びが実現 できるようにしている。 ◆ 産業を支えた先人の取り組みや文化財の修理 に取り組む現代の人々の仕事を取り上げ、 勤労を重んずる態度を養 えるよう配慮している。 ⇒ 歴史を振り返る (P.58-59) ⇒ 先人に学ぶ (P.145、159) ⇒ 地域に学ぶ (P.205、233)	⇒P.14-15 ⇒P.24-25
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	人権尊重、男女共同参画 などについての歴史に関わる事象を豊富に取り上げるとともに、協働して取り組む学習活動を提案し、責任をもって自分の考えを伝え、他者の考えを認め、他者を敬う態度を身につけ、社会の一員としての自覚を培えるようにしている。 ◆今日の 基本的人権 は、先人の多年にわたる努力の成果として獲得されてきたものという観点から、 人権にかかわる内容 は、 歴史的な経緯と現在の取り組み を記述し、 人権を尊重することの大切さ を学ぶことができるよう配慮している。 ◆ 民主政治の来歴や政治体制の変化 、 人権思想の発達や広がり を学習することで、 社会形成への参画 を求め続けた先人の取り組みを知り、 主権者としての自覚 を培うことができるよう配慮している。 ◆ 現代の諸課題 について、それが起こった 歴史的な背景や課題 に対する先人たちの取り組みを知り、生徒が 歴史を踏まえてよりよい未来の実現にむけて構想し、社会の形成に主体的に参画し、その発展に寄与する態度 を養えるよう配慮している。 ⇒「 歴史との対話 」を 未来に活かす (P.292-299)	⇒P.22 ⇒P.31 ⇒P.20-25
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	防災・減災、資源・環境、生命の尊さ などにかかわる先人の働きを積極的に取り上げている。歴史に学び、そこから自分たちの生き方に生かしていく態度や、 生命や自然を大切に する態度を育てることができるようにしている。 ◆ 災害に関する教材や課題学習 を掲載し、 防災・減災を考える態度 を養えるよう配慮している。 ⇒ 先人に学ぶ (P.143、283) ⇒「 歴史との対話 」を 未来に活かす (課題例1：P.294-295) ◆ 環境問題や公害克服のために活躍した先人たちの取り組み を掲載し、 環境の保全に寄与する態度 を養えるよう配慮している。 ⇒ 先人に学ぶ (P.141) ⇒ チャレンジ歴史 (P.210-211) ⇒ でかけよう！地域調べ (P.288-289) ◆ 生命の尊さにかかわる教材 を掲載し、 かけがえのない生命を尊重する態度 を養えるよう配慮している。 ⇒ 先人に学ぶ (P.165、209、245、283)	⇒P.24-25 ⇒P.24 ⇒P.23
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	我が国の 伝統と文化の特色 を広い視野に立って考え、 国際平和の実現 に向けて、理解を深めることができる内容を豊富に取り上げ、自分たちの住む 身近な地域や我が国を愛する心 、 他国を尊重する態度 を育てることができるようにしている。 ◆各時代の 文化の特色 を当時の 社会の様子 と関連させて理解するとともに、 我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっている ことを考えることができるようにしている。 ⇒ 文化史の学習 (P.43、48-51、56-57、78-81、90-91、96-99、118-119、131、132-133、138-141、146-149、180-183、206-208、230-233、279) ◆ 日本の領土 について、 北方領土や竹島・尖閣諸島を領土に編入した経緯 を丁寧に解説し、 日本固有の領土 であることを明記している。また、 平和的な問題解決への取り組み をわかりやすく解説している。 ⇒ 本文ページ (P.184-187、202-203、263、271、285) ⇒ 歴史を振り返る (P.286-287) ◆ 戦争の悲惨さや、二度の世界大戦後に国際連盟や国際連合が設立され、国際平和への努力 がなされたことなどを学び、 平和な国際社会の実現に向けて考える ことができるよう配慮している。	⇒P.26-27 P.31 ⇒P.23 ⇒P.23

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所	
⇒取り扱っている内容は、 学校教育法 に適合しているか。	◆ 学校教育法第30条第2項 に示された「 基礎的な知識及び技能の習得 」、「 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力の育成 」、「 主体的に学習に取り組む態度の育成 」が重視されている。	⇒P.6-15	
② 学習指導要領との関連			
⇒取り扱っている内容は、 学習指導要領 に示す目標・範囲に適合しているか。	◆ 学習指導要領 に準拠し、 基礎的・基本的な知識及び技能の定着 を図り、 各時代の特色 を踏まえて、 我が国の歴史の大きな流れ を理解するとともに、 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせながら 、課題を追究したり解決したりする 思考力、判断力、表現力等の向上 を図る学習を通して、 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成 する内容になっている。	⇒P.6-15 P.16-17	
資質・能力の三つの柱を養うための創意工夫	⇒ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 を図るために、どのような 創意工夫 をしているか。	◆ 本文 は原則1授業時間＝見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのが 学習課題 で明確に示されている。また、右ページの側注欄には 確認・表現コーナー を設けて、 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いを提示しており、 習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化 できるようにしている。 ◆ 本文 は、十分な文字量を確保し、 平易な表現で 、 歴史の流れや因果関係を丁寧に叙述 している。 ◆ 見方・考え方コーナー を設け、 学習課題の解決 に向けての手がかりとなる 主な歴史的な見方・考え方の例 を示している。 ◆見開きページの右端には、 時代・世紀のスケール を設け、学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できるように工夫している。 ◆ 歴史の学習 を豊かなものにするために、 歴史+α、先人に学ぶ、地域に学ぶ、人物コラム、各時代の女性 (コラム)を設置し、 幅広い視点から学習 できるように工夫している。 ◆資料を用いた活動を示す 資料活用コーナー を設けており、 必要な情報の読み取り などの技能を高めることができるように工夫している。 ◆側注欄に設けた 基本用語コーナー では、 歴史を理解 する際に重要な用語を解説しており、生徒がすぐに確認できるようにしている。⇒ 基本用語 (P.3に一覧を掲載) ◆教科書内で関連する事項どうしを結び付ける 参照ページ で、 多面的・多角的な見方 をすることで、 学習内容の定着 を図っている。 ◆ 連携コーナー では、 小学校社会科の学習や地理的分野・公民的分野の学習とのつながり を示し、 生徒の理解 を確かなものにするとともに、 習得した知識を活用 できるようにしている。 ◆側注欄などを利用して、 小年表・小地図 を適所に掲載し、 歴史に関わる事象の流れや起きた場所 がすぐに確認できるようにしている。 ◆ スキルUP によって、 社会的事象等について情報を収集し、読み取り、まとめる技能 を身につけることができるようにしている。⇒ スキルUP (P.3に一覧を掲載) ◆ 図版 は、 本文との関連が確 で、 時代像を具体的にイメージ できる資料を豊富に掲載している。資料を読み取る活動を随所に設定しており、 生徒が楽しく歴史を学びながら資料活用能力の向上 も図れるように工夫している。	⇒P.10-11 P.36 ⇒P.10-11 ⇒P.10-11 P.14-15 ⇒P.10-11 P.34 ⇒P.20-21 P.28 ⇒P.10-11 P.26-27 ⇒P.28 ⇒P.10-11 ⇒P.10-11 P.37 ⇒P.10-11 ⇒P.8-11 P.29 ⇒P.10-11 P.26-27
	⇒ 思考力、判断力、表現力等 を養うために、どのような 創意工夫 をしているか。	◆ トライ、スキルUP、資料活用コーナー、チャレンジ歴史 なども含めて、 毎時間、思考力、判断力、表現力等の向上 を図る場面を設定し、 随所で生徒が自分の言葉で表現 できるように構成している。 ◆各時代の まとめ では、 習得した知識を活用し、歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色 をさぐり、 生徒が各時代の特色を自分の言葉で表現 することをねらいとした活動ができるようにしている。 ⇒ 時代の特色をさぐる (P.63、103、153、213、257、291)	⇒P.8-11 P.26-29 P.32-33 ⇒P.12-13
	⇒ 学びに向かう力、人間性等 を養うために、どのような 創意工夫 をしているか。	◆ 生徒が学習の見通し をもったり 学習を振り返 ったりすることができるよう、教科書に 単元を貫く問い ([編(章)の問い]、[節の問い])を構造的に設定している。 ◆第2～6編の各編(章)の 導入ページ の 学習のはじめ には、 活動を通して単元を貫く問い を立てたり 学習を見通 したりすることができるよう工夫している。また、何を学ぶかをとらえるための教材として、 時代の前後を比較 できる資料や年表・世界地図を読み取る活動である トライ を設定し、 生徒にとって取り組みやすくなる ように工夫している。 ⇒ 学習のはじめ に(P.18-21、64-67、104-107、154-157、214-217、258-261) ◆第2～6編の各編(章)末に設定している まとめとふり返し ページでは、 学習したことをまとめ、振り返る活動 を通して 単元を貫く問い に答える活動を設定しており、 主体的に学習に取り組む態度の見取り を支援している。 ⇒ まとめとふり返し (P.62-63、102-103、152-153、212-213、256-257、290-291)	⇒P.6-9 ⇒P.8-9 ⇒P.12-13
	⇒ 歴史的な見方・考え方を習得・活用 するために、どのような 創意工夫 をしているか。	◆第1編「 私たちと歴史 」では、 歴史的な見方・考え方を働かせた歴史の学び方 が身につけられる構成になっており、 本文ページ の学習にスムーズに移行することができるよう工夫している。 ◆ 本文ページ には 見方・考え方コーナー を設け、その見開きの学習課題の解決に向けた手がかりとなる 歴史的な見方・考え方の例 を示している。	⇒P.14-15 ⇒P.10-11
	⇒ 歴史的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学び を実現するために、どのような 創意工夫 をしているか。	◆複数の資料をもとに、 歴史について自分で考えたり、対話したりして歴史を学ぶ面白さ を体験できる チャレンジ歴史 を設けている。第2～5編第2章の各編(章)の一つずつ設置しており、 発達の段階に合 わせて、 主体的・対話的で深い学びを実現 できるようにしている。 ⇒ チャレンジ歴史 (P.38-39、74-75、150-151、210-211、252-253) ◆話し合いなどの対話的な活動が想定される問いには 学び合いマーク を付している。	⇒P.32-33 ⇒P.10-11 P.27

教科書検討の観点		内容の特色	本冊子の主な 関連箇所
③ 構成・配列			
組織・配列・分量	⇒我が国の歴史の大きな流れをつかむのに、効果的な組織・配列になっているか。	◆各時代の学習では導入ページの 学習のはじめ にで単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるようにしている。本文ページでの学習を終えた後の まとめとふり返し ページでは、単元を貫く問いに答える活動や時代の特色をとらえる学習活動を設定している。この構成を原始・古代から現代までの学習で一貫させることで、時代の特色を踏まえて我が国の歴史の大きな流れを理解できるようにしている。	⇒P.6-13
	⇒構成や分量は適切か。	◆全体を「 私たちと歴史 」「 古代までの日本と世界 」「 中世の日本と世界 」「 近世の日本と世界 」「 近代の日本と世界 」「 現代の日本と世界 」の6編構成とし、詳細な学習に陥ることがないように、 学習内容の構造化と焦点化 を図っている。119時間の授業時数で学習が完結できるようにしており、これは、学習指導要領が示す歴史的分野の授業時数135時間からいって妥当な分量である。	⇒P.6-7 P.40
内容の選択	⇒歴史に関わる事象の選択は、どのようになされているか。	◆学習指導要領の趣旨に基づいて、各時代の特色や時代の転換に関係する基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に取り上げ、我が国の歴史の大きな流れを的確におさえられるように、 学習材を厳選 している。	⇒P.6-15 P.40
	⇒我が国の歴史の背景にある世界の歴史とその関連について、どのような工夫があるか。	◆聖徳太子の政治を東アジアの変化のなかで、元寇をユーラシアの変化のなかで捉えるなど、 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の記述が充実 している。また、各時代の導入ページに 地図で見る世界の動き をおき、同時代の世界を概観し、広い視野で日本の歴史を捉えられるように単元を構成している。 ⇒ 地図で見る世界の動き (P.21、67、107、157、217、261)	⇒P.8-9 P.31
	⇒歴史上の人物について、どのように選択され位置づけられているか。	◆本文では、先人たちが努力を積み重ね、社会や文化を発展させ、生活を豊かにしてきた歴史を理解できるように記述している。また、 チャレンジ歴史 、 人物コラム 、 先人に学ぶ 、 地域に学ぶ などの特設ページやコラムにおいても、問題解決に取り組んだ先人の姿を具体的に紹介している。 ⇒ 人物コラム・先人に学ぶ (P.4に一覧を掲載) ⇒ 地域に学ぶ (P.5に一覧を掲載) ⇒ チャレンジ歴史 (P.210-211)	⇒P.20-25 P.28 P.32-33
	⇒基本的人権にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆今日の私たちに保障されている 基本的人権は、先人の多年にわたる努力の成果 として獲得されてきたものという観点から、部落差別のほか、女性・アイヌ・在日外国人などの基本的人権にかかわる内容は、 歴史的な経緯と現在の取り組みを丹念に記述 している。 各時代の女性の コラムでは女性たちが社会で活躍する姿や権利を求めて運動する姿を紹介するなど 人権に関する教材が充実 している。 ⇒ 歴史を掘り下げる (P.174、234-235) ⇒ 各時代の女性 (P.4に一覧を掲載)	⇒P.22 P.41
	⇒平和・命の尊さにかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆世界の平和をめざした先人の取り組みや平和に向けた国際的な活動を取り上げ、 国際協調の精神を養 えるように教材を位置づけて 平和や国際理解をめざして行動する態度を 培おうとしている。 ⇒ 本文ページ (P.222-223、268、280-281、284-285) ⇒ 「歴史との対話」を未来に活かす (課題例/P.298-299)	⇒P.23 P.41
	⇒環境・資源・エネルギーにかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆産業の発展とそれに伴う資源・エネルギーにかかわる事例や、 公害の問題解決に取り組んだ人々 を教材化し、生徒が 選択・判断 できるようにしている。 ⇒ 地域に学ぶ (P.205、233) ⇒ 先人に学ぶ (P.141) ⇒ でかけよう！地域調べ (P.288-289) ⇒ チャレンジ歴史 (P.210-211)	⇒P.24 P.41
	⇒伝統・文化にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆各時代の文化史については、原則3、4ページ構成にして代表的な事例を豊富に、大きく取り上げるようにしている。また、網羅的な取り扱いにならないように配慮している。 各時代の文化を我が国の歴史の大きな流れと諸外国との交流のなかで学び、その特色を広い視野から考えられるようにしている。また、琉球・アイヌの文化に関する取り扱いも充実 している。 ⇒ 文化史の学習 (P.43、48-51、56-57、78-81、96-99、118-119、138-141、146-149、180-183、206-208、230-233、279) ⇒ 琉球の文化 (P.90-91、132-133) ⇒ アイヌの文化 (P.90、131、132-133) ◆我が国の 国宝や史跡、世界遺産 などを豊富に紹介している。さらに、 文化財の保護・継承に大きな役割を果たした先人や現在の取り組みも紹介 して、受け継がれてきた 伝統や文化を大切に思い、引き継ぐ態度を 養おうとしている。 ⇒ 先人に学ぶ (P.79、97、183) ⇒ 歴史を掘り下げる (P.58-59) ⇒ 日本の世界遺産・文化財の種類 (折込年表、巻末1、巻末3-4)	⇒P.25-27 P.41 ⇒P.25-27
	⇒防災・減災にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆過去の災害や、 防災・減災、復興に向けた先人の取り組み を掲載し、生徒が 自分のできることを考える態度を 養おうとしている。 ⇒ 先人に学ぶ (P.143、283) ⇒ 「歴史との対話」を未来に活かす (課題例/P.294-295)	⇒P.24-25 P.41
	⇒持続可能な社会、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、現代的な諸課題にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆P.4-5、284にて17の目標を示すとともに、SDGsに特に関連の深い教材については SDGsマーク を付して随所に登場させており、教科書全体を通してSDGsについて考えられるようにしている。 ⇒ 持続可能な開発目標 (P.4-5、284など) ◆ 持続可能な社会の実現にかかわる現代的な諸課題の歴史的背景や今日までの取り組みを学ぶとともに、生徒が自らもかかわる切実な課題としてとらえ、解決に向けて歴史を踏まえて多角的・多面的に考えることができるよう構成 している。⇒ 「歴史との対話」を未来に活かす (P.292-299)	⇒P.20-21 P.41 ⇒P.20-25 P.41

教科書検討の観点		内容の特色	本冊子の主な 関連箇所	
内容の選択	⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆ 生徒自身が地域への関心を高め、地域の歴史を発見 していけるように、身近な地域の歴史の調査の仕方・考察の仕方・発表の仕方を解説しているほか、 地域に学ぶ を掲載して、地域の具体的な事例とのかかわりのなかで我が国の歴史を理解させようとしている。また、取り上げられた事例は、その調べ活動を通して、受け継がれてきた 伝統や文化への関心を高めるとともに、我が国の歴史について理解と愛情を深めることができる ように構成している。 ⇒ 身近な地域の歴史の探究 (P.12-17) ⇒ 地域に学ぶ (P.5に一覧を掲載) ⇒ でかけよう！地域調べ (P.60-61、100-101、120-121、188-189、254-255、288-289) ◆古代の人々の信仰や考え方がわかる 神話 のほか、日本の 国号・天皇号の始まり などを考古学の成果を活用しながら具体的に説明している。 ⇒ 歴史+α (P.45) ⇒ 歴史を掘り下げる (P.51) ◆日本の領土について、 北方領土や竹島・尖閣諸島を領土に編入した経緯 を丁寧に解説し、 日本固有の領土であること を明記している。また、 平和的な問題解決への取り組み を解説するほか、現代とは異なる前近代の国際秩序を紹介するなど、 現代の課題を広い視野からとらえられる構成 にしている。 ⇒ 本文ページ (P.184-187、202-203、263、271、285) ⇒ 歴史を掘り下げる (P.286-287) ⇒ 歴史+α (P.89)	⇒P.30 P.41 ⇒P.41 ⇒P.23 P.41	
	⇒ウェルビーイングとかかわる学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆生徒が、社会を構成する当事者として、 個人と社会の幸せのために、多様性と包摂性のある持続可能な社会 をめざして、自ら主体的に考え、学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養 ができるような教材が設けられている。	⇒P.20-25	
	⇒個別最適な学び、協働的な学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆ 個別最適な学び については、 指導の個別化の実現のため、教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 など、生徒の学習到達度に応じて教師から柔軟に提供できる多様な教材を設けている。また、 第1編第2節「身近な地域の歴史の探究」「歴史との対話」を未来に活かす は生徒自身が課題を発見し、探究活動を進めることを想定しており、 学習の個性化が実現 できる。 ◆ 協働的な学び については、 導入ページや資料活用コーナー で資料を読み取ったことを発表し合う場面、 チャレンジ歴史 で自分の考えを出し合う場面、 まとめとふり返し ページで各時代の特色を発表し合う場面など、生徒の多様な回答が可能な問いや活動には 学び合いマーク を付している。自分の考えをクラスメイトとともに練り上げていく対話的な活動を提案するとともに、こうした活動を積み重ねることで、 持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成 するように配慮している。 ⇒ 学び合いマーク (P.11、18-21、31、39、55、63、83、151、163、211、241、257、291など)	⇒P.16-17 P.21-25 P.30 ⇒P.8-13 P.27 P.32-33	
	⇒カリキュラム・マネジメントについて、どのような配慮がなされているか。	◆学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせ選択・活用できるように各種の教材が設けられている。 ◆ 第1編第2節、でかけよう！地域調べ、地域に学ぶ などのなかで、博物館の見学の仕方や施設職員へのインタビューなどがあり、 社会と連携・協働 しながらよりよい 社会を創るために必要な資質・能力の育成 に参考となる事例が充実している。	⇒P.37 ⇒P.29 P.30	
	⇒ICTを活用して学習を効果的に進められるように工夫しているか。	◆教科書紙面に 二次元コード を掲載し、発行者Webサイト上で公開している動画や資料、ワークシート等のデジタルコンテンツである 教科書QRコンテンツ に生徒が主体的にアクセスできるようにしている。 ◆教科書QRコンテンツのある箇所には、 タブレットマーク を配置しその内容を示している。	⇒P.16-19 ⇒P.11 P.16	
	⇒デジタル教科書・教材の発行予定はあるか。	◆教科書に完全に準拠し、拡大・リフロー、音声読み上げ、色の反転・配色設定、総ルビ表示といった特別支援機能をもつ 学習者用デジタル教科書 や、動画・アニメーション表示などの豊富なコンテンツを収録し、電子黒板や1人1台端末などで操作することができる 指導者用/学習者用デジタル教材 の発行が予定されている。	⇒P.35 P.44-45	
	⇒情報活用能力の育成についてどのような配慮がなされているか。	◆社会科におけるICT機器を利用した学習を促進し、情報活用能力を育成できるようデジタルコンテンツを提供している。 ◆情報を収集し、読み取り、まとめる技能を解説する スキルUP を教材に合わせて適宜掲載し、生徒の学習活動を支援している。 ◆時代の特色を考える まとめとふり返し では、生徒が主体的に課題解決・探究学習を行うための教材を設けている。また、そのような学習に際して、情報を整理・比較などするための 思考ツール を取り上げ、その活用の仕方を 教科書QRコンテンツ で丁寧に解説している。	⇒P.16-19 ⇒P.29 ⇒P.12-13 P.19	
	⇒生徒の家庭学習に対して、どのような配慮がなされているか。	◆第2～6編のすべての節の導入ページに 教科書QRコンテンツ「イントロダクションムービー」 を用意している。前の節で学習したことを確認したり、「節の問い」を解決するための学習の見直しをもったりする際に役立つ教科書完全準拠の動画コンテンツで、家庭での予習・復習にも利用できるように工夫している。 ◆基礎的・基本的な知識に関する一問一答の問題である 教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 を用意している。答え合わせや誤答した問題の振り返りを生徒自身で行え、家庭での予習・復習にも利用できるように工夫している。 ◆歴史を理解する際に重要な用語を解説した本文ページの 基本用語 や巻末の 歴史学習の基礎資料 を用意している。 さくいは は、人名・事項のほかにテーマ別(政治、経済・社会、文化、外交)を設置するなど、生徒の主体的な学習を支える基礎資料が充実している。 ⇒ 基本用語 (P.3に一覧を掲載) ⇒ 歴史学習の基礎資料 (P.301-303、巻末1-4) ⇒ さくいは(人名・事項) (P.304-307、テーマ別/P.292-293)	⇒P.16-17 ⇒P.16-17 ⇒P.28	
	他分野との連携	⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達の段階に対して、どのような配慮がなされているか。	◆ 第1編 や各時代の 導入の年表 、本文ページ脚注の 連携コーナー において、 小学校で学んだ人物・文化遺産などを再確認 できる構成になっている。生徒が、既習事項を踏まえて、スムーズに中学校の歴史学習に移行できるように工夫している。 ⇒ 第1編 (P.6-7) ⇒ 「導入」の年表 (P.20、66、106、156、216、260) ⇒ 連携コーナー(小学校社会科) (P.35、43、49、55など) ◆生徒の思考力、判断力、表現力等を養う活動では、自由記述以外に、話型を示して取り組みやすくする場所を設けるなど、 発達の段階を考慮した配列 にしている。	⇒P.8-11 P.14-15 P.37 ⇒P.12-13

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な 関連箇所
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">他校種・他教科・他分野との接続</p> <p>⇒地理的分野や公民的分野との連携について、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒他教科との関連について、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地理・公民との関連を考慮した内容構成にしている。地理的分野との関連では、地図を多用して、空間的な見方から史実を的確にとらえる能力を育成しようとしている。公民との関連では、「歴史との対話」を未来に活かすなどで現代社会の諸課題について、その歴史的背景を明らかにし、公民的分野の学習につなぐように構成している。 ⇒「歴史との対話」を未来に活かす(課題例/P.294-299) ◆本文ページ脚注の連携コーナーにおいて、生徒が地理や公民の学習に関連する事項を確認、活用することができる。 ⇒連携コーナー(地理・地図帳・公民/P.25、77、93、109、161、163、171) 	<p>⇒P.21-25 P.36-37</p> <p>⇒P.11 P.37</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文ページ脚注の連携コーナーにおいて、歴史的分野の学習内容と他教科との関連を示唆し、教材を多面的・多角的なとらえ方ができるよう工夫している。 ⇒連携コーナー(国語/P.27) 	<p>⇒P.37 P.41</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書全体を個人の尊重の考え方を基本理念として構成しており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女共同参画などの観点から適切に選択している。 ◆主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や、現代につながる政治制度や人権思想の広がりについての学習が充実しており、社会参画への関心や意欲、持続可能な社会の形成に参画する態度を養えるようにしている。 	<p>⇒P.37</p> <p>⇒P.20-25 P.31 P.41</p>
<p>④ 正確性及び表記・表現</p>		
<p>⇒文章および図版等の表現は正確か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文や写真・年表・地図・グラフ・イラスト等の図版類すべてにわたり、内容はもとより、用語の一つ一つまでも細心の吟味を払うとともに、きわめて正確で信頼できるものになっている。 	<p>⇒P.10-11</p>
<p>⇒カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、配慮が行きわたっている。 ◆本文は、原則1授業時間=見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成されている。 ◆見開きページの右端には、時代・世紀のスケールがそえてあり、学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できるように工夫している。 ◆文字は、視認性の高さで実績のあるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用している。 ◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。 ◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校で未習の漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。 ◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。 ◆重要語句は太字にして、全てふりがなが付されている。ていねいな解説をした側注も充実し、振り返りと広がり意識した参照ページが随所に付され、内容理解の促進が図られている。 ◆図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読み取らせるようにしている。 ◆時代区分や年代のあらしわし方を説明する教科書P.9に各時代の色が示され、目次から第1～6編、巻末折込年表にいたるまで、時代の色を統一して示している。 ◆地図・グラフ等の図版類は、カラーバリエーションに配慮した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるように配慮している。 ◆本文が22、26ポイントの2種類の拡大教科書の発行が予定されている。 	<p>⇒P.34-35</p> <p>⇒P.10-11</p> <p>⇒P.10-11 P.34</p> <p>⇒P.34-35 ⇒P.10-11 P.34</p> <p>⇒P.34 ⇒P.34</p> <p>⇒P.10-11 P.34-35</p> <p>⇒P.34</p> <p>⇒P.35</p> <p>⇒P.35</p>
<p>⑤ 造本</p>		
<p>⇒大きさ・判型について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆見開きページの情報量を充実させるため、ワイドなAB判が採用されている。 	<p>⇒P.8-9</p>
<p>⇒印刷の鮮明さについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆文字や写真、イラストなどの印刷は鮮明で、読み取りやすく、生徒の興味・関心を高めることができる。 	<p>⇒P.10-11 P.26-27</p>
<p>⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、針金綴じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえるとともに、十分な強度で裏写りが少なくなるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。 ◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。 	<p>⇒P.34</p>
<p>⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆表紙の装丁は、原始・古代から現代までの歴史的分野の学習内容に即した有形・無形の文化財などの写真を配置している。また、世界と日本、過去と現在、先人と私たちといったつながりや、多様性、グローバル化、持続可能な社会をイメージしてデザインしており、親しみやすく、かつ生徒の学習意欲を喚起するものになっている。 	<p>⇒表紙 P.34</p>